

プレスリリース

2019 年 10 月 25 日

がん領域に特化した研究開発型ベンチャー企業である Chordia Therapeutics 株式会社(以下「当社」)(代表取締役:三宅洋、所在地:神奈川県藤沢市)は、このたび竹山邦彦がチーフメディカルオフィサー(CMO)として入社し、森下大輔をチーフサイエンスオフィサーに任命したことを発表しましたので、お知らせいたします。森下は当社の共同創業者の一人であり、これまで Discovery 部門の Senior Director を務めていました。竹山は武田薬品の日本オンコロジー部門の元代表であり直近は東京医科大学の教授を務めていました。森下は前臨床研究、竹山は臨床開発の全般をリードします。

当社代表取締役である三宅洋は、次のように述べています。「森下氏と竹山氏は創薬の研究開発全般に幅広い経験を有しており、彼らの指導力はパイプラインの開発成功に欠かすことができません。二人の戦略的な貢献は前臨床そして臨床の目標を達成するために非常に重要です。我々のリードアセットである CLK 阻害剤 CTX-712 は現在、初めてヒトに投与する第 I 相臨床試験を実施中ですが、そこでは安全性、薬物動態と薬効を検討していきます。竹山氏のリーダーシップと日米のトップレベルの臨床家とのネットワークによって、CTX-712 の臨床開発を加速させます。森下氏は 2 番目のアセットである MALT1 阻害剤 CTX-177 の臨床試験を 2020 年中に開始するための重要な役割を担っています。」

森下は次のように述べています。「当社は科学に基づきオンコロジー領域に特化した研究と開発を行っています。私たちの研究チームは薬理学、化学、計算機科学、バイオインフォマティクスの専門家から構成されており、迅速で効率的に候補化合物の選定を進めています。科学アドバイザーや共同研究者と協力しながら、前臨床パイプラインの臨床試験開始をサポートします。」

また、竹山は次のように述べています。「抗がん薬の開発に特化した Chordia Therapeutics に入社できることを大変うれしく思います。全てのパイプラインにとってもそうなのですが、特にファーストインクラスの CLK 阻害剤である CTX-712 にとって今はとても大事な

時です。Chordia の一員として、がんの治療を変えうる革新的な薬を開発していくことを楽しみにしています。」

Chordia Therapeutics について

Chordia Therapeutics は抗がん薬の研究と開発を行い、革新的な新薬を生み出すことを目指している会社です。日本の投資会社である京都大学イノベーションキャピタルとジャフコをコリードとした投資企業シンジゲートによる投資を受けています。

詳しくは当社ホームページ www.chorditherapeutics.com をご覧ください。

このリリースに関するお問い合わせは info@chorditherapeutics.com までお願いいたします。

以上